

会員制教育サポート・サービス Premier Edu サポートセンター お子様にあった教育を

米国で発生するお子様の教育に関する悩みは、家族構成によっても異なり、お子様の今後の進路にも影響します。日本から渡米され、米国教育システムに奮闘しているご家族もいれば、国際結婚をしたことにより、家庭内でバイカルチャー・バイリンガルとしての環境作りに苦労しているご家族もいます。

また、米国には様々な人種の方が住んでいますが、全てのお子様に平等に教育を受ける権利が与えられています。そのため、お子様の能力や状況に応じて、日本にはないプログラムも見られます。お住まいの地域ではどのようなプログラムがあるのかをご確認の上、お子様にあった教育内容をお選びください。

＜両親が日本人の場合＞

渡米して、多くのご家族が苦労するのは英語です。お子様の年齢や言語習得能力にもよりますが、急に英語だけの環境に入ることに戸惑うのは当然です。保護者の方も、米国の教育システムをまだ理解していない上に、お子様をどのようにサポートしたらよいかも分からず、困惑されることも多いでしょう。

その際、早くお子様が学校生活に馴染めるようにと、必要以上に英語漬けの生活をさせる保護者の方もいます。しかし、新環境にストレスを感じている時期であれば、ご家庭内は安らげる場所にしてあげることが大切です。また、第一言語がしっかりしているお子様は、第二言語の習得も早いと言われています。特に、幼児期・小学校低学年で渡米されたお子様の場合、まだ日本語でも分からないことが多いものです。そこに英語が入ってきてしまうと、どちらの言語も中途半端になってしまったり、習得までに時間がかかってしまいます。バイリンガルに育てたいと思うのであれば、まずはしっかり日本語を覚えさせることをお勧めします。米国滞在年数が長くなると、徐々に英語を使う機会が増えてきます。それでもご家庭では日本語、学校では英語と使い分けられるよう徹底することが重要です。

いずれ日本に帰国する予定のご家庭では、言葉や現地適応の問題と共に、帰国に伴う編入に向けて準備が必要となります。米国では学期途中になってしまいがちですが、出来るだけ日本の新学期である4月にあわせて編入させてあげたり、帰国生の多い学校を選ぶなど、お子様の負担が少しでも軽くなるよう早い段階から準備しておくとい良いでしょう。英語や米国文化から取り入れたことが多いお子様ほど、帰国後の適応は大変です。語学力や希望進路にあわせて学校を選び、帰国後も新環境に適応しやすいようサポートし続けることが、お子様の心の支えとなります。保護者の方もご自身で経験がないため、どうしたらよいかわからないことも多いかと思います。そんな時は、是非 Premier Edu サポートセンターにお電話ください。

＜国際結婚の場合＞

米国での滞在期間が長くなるにつれて、お子様の日本語の維持は難しくなっていきますが、国際結婚をされているご家庭の場合はさらに複雑です。ご家庭内の会話を全て日本語という訳にもいかないでしょうし、お子様の第一言語は英語なのか日本語なのか、ご家庭によって異なるかと思います。第一言語が何語であれ、日本語学習については日本人である保護者の方がサポートする部分が多くなります。日常生活の中にどれだけ日本語を取り入れていけるかが、お子様の日本語力を伸ばすカギとなります。家庭内で使う言語を相手や状況によって使い分けるよう習慣づけ、補習校へ通ったり、日本の体験入学に参加したり、日本文化に触れるとお子様も日本語の必要性を感じ、学習意欲も高まります。その際、強制的に勉強させるのではなく、楽しみながら自然に日本語を学べる環境を作れるよう保護者の方の努力も不可欠です。保護者の一方が日本語が分からない場合でも、補習校への送り迎えや、ご家族で日本旅行をするなど、サポートできることはあります。また、その保護者がアメリカ人の場合、現地校については教育システムを理解しているので、サポートしやすい部分もあります。バイリンガルを育てるためには、両親が同じ信念を持ち、それぞれが出来る限りのサポートをしてあげることが大切です。

お子様の日本語への興味が高まると、日本に住んでみたい、日本の学校に通ってみたいという想いも強くなります。体験入学のように短期であれば、ご家族の生活にも大きな支障はないかと思いますが、お子様が日本の高校や大学への進学を希望する場合は、家族で引っ越すのか、お子様のみを滞在させるのか進路の選択も複雑になります。どのタイミングでどの学校へ編入するのがお子様に最適なのか、保護者の方がどのようにお子様をサポートすべきなのか、困った時はいつでも Premier Edu サポートセンターへお問合せください。